

## 編集 後記

第67巻4号をお届けいたします。本号は5編全てが原著であり、それぞれ読み応えのある内容になっています。

第1編は英語論文です。一自治体をフィールドとした、ひきこもりの特徴と性差要因の研究です。結果としてひきこもりには性差があり、男女それぞれの関連要因が明らかになったことは興味深く、今後の具体的支援に向けての示唆が得られたと思います。

第2編は「がん登録」に対する世論の印象の変化やメディアの取り上げられ方を新聞記事の分析を通して明らかにした研究です。情報として疫学データが紙面を通して社会に還元されていること、社会的な出来事の発生とメディアの取り上げられ方との関連なども見出され、今後、人々への周知等社会へ提示していく際の参考になると思います。

第3編は国民健康・栄養調査から65歳以上の女性を対象に食料品アクセス困難の実態と困難者の栄養及び食品摂取との関連を明らかにした研究です。困難者の特徴として炭水化物摂取に偏った食生活であること等から、その支援には経済状態だけでなく、食環境が食生活を規定していること等も踏まえた取り組みの必要性が示唆されました。

第4編は地域・職域連携活動が各地で実施されているものの、その成果等との関連はまだ明らかにされていないことから、二次医療圏での地域・職域連携の活動の実態と協議会等の開催状況との関連を明らかにした研究です。協議会が開催され、その回数が多いこと、具体的に連携活動を活発に行うこと等が連携成果への実感と関連していることが明らかになり、今後の連携推進に向けての具体的な示唆が得られました。

第5編はう蝕と診断された子どもの歯科受診に消極的な保護者の態度に関連する要因を明らかにした研究です。受診に消極的な家庭・保護者の特徴として子どもが朝食を食べない、歯磨き回数が少ない、母親が就業している・帰宅が遅い等が明らかになりました。今後は家庭要因や社会的背景の影響が大きいことを踏まえた支援が重要である示唆が得られました。

さて、今、私たちは新型コロナウイルス感染症(COVID-19)という未曾有の脅威に直面しています。またウイルスの脅威のみならず、見えないウイルスへの恐怖による差別や偏見の脅威にも直面しています。立場や活動はそれぞれ異なると思いますが、今こそ公衆衛生を専門とする私たちが人々の生命や生活を衛るためにそれぞれの力を発揮する時と思います。

新型コロナウイルス感染症でお亡くなりになられた方々へのご冥福を、そして治療・経過観察中の方々の一日も早いご回復を心よりお祈り申し上げます。

そして、感染拡大防止のために最前線において、日々最善を尽くされている皆様に最大限の感謝を表します。一日も早く終息することを祈りつつ…。 (北岡英子)

## 次号予告 (第67巻・第5号)

### 原著

日本の地域スポーツクラブにおける高齢者スポーツの実態と課題：総合型地域スポーツクラブ活動状況調査の分析……………安藤裕一，他  
認知症患者の生命予後：日本の一地域の介護保険認定者における観察……………國分恵子，他  
本邦の新設およびコンビニ併設保険薬局におけるタバコ販売の実態調査……………宮田 潤，他

### 資料

「互助」の概念分析……………伊藤 海，他  
全国市区町村の大規模災害における栄養・食生活支援活動に係る準備状況と行政管理栄養士等の関わり状況について……………久保彰子，他